

第一部：研修報告

1. 研修の概要を1 ページ以内にまとめよ。

研修場所は、UNESP 大学の免疫学に関する研究をしている Alexandra 教授の研究室であった。そこで私は、9 週間を3 週間毎に3 つのチームに配属され、それぞれのチームがやっている実験について学んだ。

1 つ目のチームは、Taís と Ana の班で、肺に存在する alveolar macrophages がどのような経路を使ってバクテリアを食菌するかということ調べていた。そこで私は、2 週間半をかけて、彼女らが行う実験作業が各々どのような意味を持つか、実験操作で気をつけること、やってはいけないことなどを細かく教わった。ここでは、彼女達の傍につき、一つ一つの作業を観察、会話をすることで学んでいった。そして、最後の2 日間を使い、実際にマウスを CO₂ で殺し、解剖し、肺を取り出す作業、さらにそこから細胞を取り出し、カウント、プレートに置く作業、そして次の日顕微鏡で観察する作業をやらせてもらった。

2 つ目のチームは、Thaís の班で、海洋生物が分泌する物質が、抗炎症作用を持っているかを検証していた。やはり始めは隣に付くことで、実験方法や操作の意味を教わり、2 週目の途中には実際に作業と一緒にやらせてもらった。ここでは、エッペンドルフチューブを用いて異なる濃度の試薬を作成し、それを 96 個のウェルを持つプレートに4 つずつ入れていき、最終的には分光光度計で数値化し、グラフにする作業まで教えてもらった。この作業は土曜日に至ることもあり、科学者の世界を垣間見れた。できたグラフを教授に見せたら好印象なコメントをもらった。

3 つ目のチームは、Felipe と Naiara、そして Fernanda の班で、未分化の T 細胞がヘルパー T 細胞 14 に分化する時、どのような反応が起こっているのかを解明していた。この班は特別なホルモン物質を用いるため、キットが届く度に実験を行っていた。彼らは精製された溶液の中にホルモン物質が確かに含まれているかどうかを知るために、Flow cytometry を使っていた。そこで私にどのようにそのグラフを読むか、どういったことに気をつけて結果を見たらいいかを教えてくれた。

他にも、コンタミネーションが存在するか否かを確かめるために必要だったり、Ana が実験に必要なため、農場へ行き、羊から血を採る作業を手伝った。

Thaís が彼女の実験において、目的のたんぱく質が生成されているかを調べるために、1 度だけウェスタンブロットを行なった時は、実験に同席し、どのように作業を行なうかを教わった。ウェスタンブロットでは、X 線を使う作業があり、暗闇に行くことも含まれるが、すべての行程を観察することができた。

さらに、他のある実験において、骨髄液が必要だったため、マウスを解剖し、そこから骨をとって骨髄液を抽出する作業も見守った。

免疫学の研究には、マウスもラットも必要であるため、その無菌状態での手入れの仕方も学んだ。

殺菌の作業が必須な免疫学の実験室であったので、ビーカー、ハサミ、ピンセット、マウスのえさ、ピペット、マウス用の水など、あらゆるものを滅菌する作業を手伝った。

2. まとめとして、研修内容および派遣国での生活全般について 4 ページ程度で具体的に記述せよ。
(研修日誌、テクニカルレポートや単位認定用のレポートの内容を含んだもの。写真もあるとよい。)

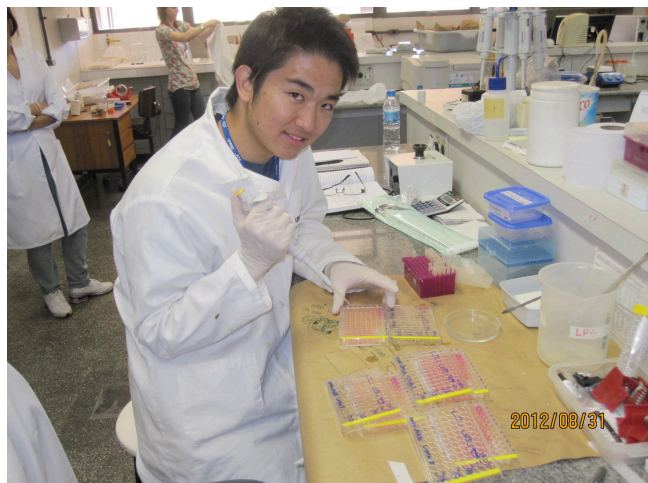
【住むところ】

6 人のブラジル人と一緒にシェアハウスでの生活であった。洗濯・掃除・料理はお雇いさんがいて、彼女が平日は毎日来て、全てをやってくれていた。(料金込み) 6 人のブラジル人達はみんな学部生で、化学の勉強をしていた。料理は米・豆・肉・野菜がワンプレートを盛るもので、すごくおいしかった。昼食時には必ずフレッシュジュースがあり、マンゴー、オレンジ、パイナップルなどのジュースが順番にあった。近くにスーパーマーケットがあったので、必要であれば歩いていくことができた。大学へも 25 分歩けば着く距離にあったので、行きは歩きで、帰りは研究室の人の車に乗せてもらって往復していた。



【言語】

着いてシェアハウスの仲間と会った瞬間から、「英語はつたないな」と感じた。そして研究室に行き、教授は英語をしゃべるも、「学生たちは話せないよ」と言われた。そのまま研究室での研修が始まり、色々なことを教えてくれるが、中々うまくいかない。そこで、私は「外から来た人間にわざわざ教えてくれようとしているのだから、せめて言語は覚えよう」と決心し、学生たちは完全ポルトガル語を話し、私もポルトガル語で答え、分からないときはゆっくり言ってもらったり、私が言い直して正しいかを確認したり、密なコミュニケーションをとることで、言語の壁を乗り越えた。その結果、研究室以外でも友達が増え、「こいつはポルトガル語を短期で習得した日本人」と少し噂されるまでに成長した。実際、研究室で専門的なことを教わる時も、終始ポルトガル語で通じた。私の場合、高校をアメリカで過ごしたことで英語を完全に習得し、大学 2 年間と、2 年目終了時にフランスへ語学留学を 6 週間行ったことから「言語を習得する能力」が磨かれていたからこそ成しえたと思っている。また、2012 年 4 月 (研修開始 4 ヶ月前) からポルトガル語の本を買い、独学で勉強を始めたことも手伝ったと考える。



【食べ物】

朝食は、毎日 9 時に研究室に行き、コーヒーと一緒にミニフランスパンをマーガリンで食べていた。昼食は、研修開始当初は毎日シェアハウスに戻り、シェアハウスのメンバーと一緒に食べていたが、それでは移動に時間が取られすぎるため、前日の昼食をタッパーに入れて、研究室に持ってくるようにした。食事はその日によったが、米が主であるも、パンが出たり、パスタになったりと、ヨーロッパの料理がベースになった味付けのものが多かった。夜は、基本的に昼食の残りをレンジで温めて食べていた。週末はごはんがないので、自分でハンバーガーを買いにいくなり、食材をスーパーで買ってきてみんなで自炊するなりして食べた。



【人間関係】

基本的に、私が日々付き合った人達は、シェアハウスの仲間たちおよびその友達、研究室の友達とその近辺の人たち、そしてたまに出会う IAESTE の研修生数人程度であった。中でも特に親しくなったのは研究室の友達で、ランチも一緒に食べたり、実験操作でずっと隣に座っていたりととても仲良くなった。実際、彼女たちに招かれてパステル(ブラジル料理)の会を開いてくれたり、Temaki(手巻き寿司)と一緒にやったり、パーティーと一緒にいたり、色んな機会に連れ出してくれた。ポルトガル語を一番熱心に教えてくれたのも彼女たちであり、まじめな話からあほな話まで色んな話を共有できたのも彼女たちであった。シェアハウスの仲間たちとは、夜 24 時から始まる毎週木曜日のパーティーと一緒に参加した。父の日には、一人の実家に一緒に連れて行ってもらい、ブラジル人家庭を垣間見ることができた。もらうばかりでなく、シェアハウスの住人の 2 人は就職活動をしているので、英語のトレーニングが必要だった彼らをサポートしてあげた。IAESTE の研修生とは、特に 3 人と仲良くなり、2 人ずつだが、後に綴る旅行と一緒にいった。





【イグアスの滝への旅行】

ベルギー人の Maud と、メキシコ人の Raquel と一緒に、木曜の夕方～月曜の昼というスケジュールで長距離バスを利用して旅行に行った。二人は私と同じ Araraquara キャンパスで IAESTE 研修をしていた学生で、大学生たちのパーティーで出会った。共通の友人がシェアハウスを通じていたことから頻りに会う機会があった。片道 16 時間という長旅ではあったが、ブラジル側のイグアスの滝も、アルゼンチン側のそれも見ることができ、さらには世界最大の水力発電所 Itaipu にも行くことができた。「旅の質を決めるは、どこへ行くかではなく、誰と行くか」という言葉の通り、楽しい 2 人と一緒に行けて充実した時間が過ごせた。旅の後も何回も会ったが、今でも連絡をとる友人となっている。



【気候】

私が研修をした8月9月は、南大陸に位置するブラジルでは「冬」のはずであるが、日本の冬とは違い、温暖な気候であった。日中は半そでで生活できるくらい。研修開始から8週間は雨粒一つ降らない、毎日太陽の照っている世界であった。最終週の9週目は8週目の週末の雨が原因か、いきなり気温が下がり長袖が必要な気温であった。その代わり、乾燥は激しかったため、夜たくさん水分補給をしてから寝ることや、リップクリーム、ハンドクリームが必要だった。

【リオデジャネイロへの旅行】

前回と同じメキシコ人の Raquel と、新しいドイツ人の Kira と一緒に、水曜の夜～日曜の昼というスケジュールで飛行機を利用して旅行に行った。Kira もまた、私と同じ Araraquara キャンパスで IAESTE 研修をしていた学生であった。リオデジャネイロでは、非常に残念ながら、あいにくの天候が続き、100%満足！という訳には行かなかった。さらに、前回のイグアスの滝は3人ともポルトガル語を話そうという姿勢があったが、今回の Kira は言語に関して Raquel と私に頼りきりだったため、ところどころで苛立ちは起きた。が、最終的に危ない目にも会わず、健康にもとの場所に戻ることができたので、行って良かったと思っている。



第二部：アンケート

以下の質問にお答えください。

A. 研修内容について

1. 研修内容は、O-form に記載されていたとおりでしたか。 はい
「いいえ」と答えた場合、どこが違っていたか具体的に記述してください。

2. 就業時間は、O-form に記載されていたとおりでしたか。 はい
実際の就業時間： 全(30)時間/週
週(5)日間;(月)曜日から(金)曜日

3. 研修先から支払われた“滞在費”は、現地の通貨で週いくらでしたか。“滞在費”の内訳と日本円に換算した金額とあわせて書いてください。
(給料) = R\$1200 / 2 months = ¥57142
生活費 = R\$1077 / 2 months = ¥51318
旅行費 = R\$1469 / 2 months = ¥69961

4. 研修先から支払われた“滞在費”は、生活するのに十分なものでしたか。 いいえ
「いいえ」と答えた場合、何にいくらぐらい足りませんでしたか。
切り詰めて上記の額であった。
交通費、食費、旅費にプラス R\$200/month 欲しかった。

5. “滞在費”はどのように支払われましたか。(例:現金手渡し・銀行振込)
小切手を教授と一緒に受け取りに行き、一緒にそれをすぐに現金化した。
2 か月分の滞在費を、2 週目にまとめてもらった。
(教授のアカウントに一か月分を置いておいてもらったので、2 ヶ月目にまたお願いして引き出してもらった。)

6. 研修中の滞在先について、宿舎の形態、周辺地域の環境や治安について詳しく記述してください。
7 人で一つの家に生活。(シェアハウス)6 人全員ブラジル人。
1 人部屋 2 つ、2 人部屋 1 つ、そして 3 人部屋 1 つで、私は 3 人部屋に泊まった。
スーパーマーケットが近くにあった。田舎町、大学町なので、治安は非常に良かった。

7. 研修中の滞在先(宿舎)から研修地までの通勤について書いてください。(交通の便・手段・費用等)
行きは徒歩で 25 分、帰りは研究室の友達に送ってもらった。
(研修当初はシェアハウスの友達に送っていてもらっていたが、自立を望んだ。)

8. 研修先での職場環境(人間関係)は良かったですか。 はい
「いいえ」と答えた場合、不満だった点を書いてください。

9. 研修において、何か特別なプロジェクトに参加しましたか。 いいえ
「はい」と答えた場合、参加したプロジェクトの内容を詳しく記述してください。
10. 研修において、あなたの語学力(O-form に記載されている Required Language)は客観的に見て十分だったと思いますか。 はい
「いいえ」と答えた場合、どの程度不十分であったか、まだどう対策すべきと考えたかを書いてください。

B. 普段の生活について

1. 研修以外の時間(勤務時間後や週末)はどのように過ごしていましたか。
友達に招かれて、Pastel(ブラジル料理)を作ったり、Temaki のパーティーをやったり、観光地へ旅行したりした。現地の大学生パーティーにも何度も行った。バーベキューの文化があったので、毎週末のそれに参加した。
2. 研修地でイアエステ委員会主催の催しに参加しましたか。 いいえ
「はい」と答えた場合、参加したプログラムの内容とあわせて感想も書いてください。

参加費が高かったので参加しなかった。
3. 派遣国で、その国の伝統文化に触れるような機会がありましたか。 はい
「はい」と答えた場合、どのようなものに参加したか、感想も詳しく書いてください。
伝統料理を作って呼んでくれたり、サンバ・パゴージ・フォーホーの音楽に触れたり、踊りを習ったりした。フォーホーはコミュニティーセンターみたいなところでダンスレッスンがあったので参加した。
4. 派遣国の印象を、現地へ行く前と行った後のイメージの変化も含め、詳しく書いてください。
オープンマインド、ウェルカミングな人柄。
正直行く前は危ないイメージしかなかったが、ものすごいやさしくて、丁寧な人達だと感じた。
サンバやサーテネジオなど独自の音楽を持っている国。ラテンの国で性に関してすごくオープン。そういう会話も出てくるし、そういうジョークもたくさんある。
5. 研修国で、日本のことについて質問をされましたか。 はい
「はい」と答えた場合、特に印象に残った質問、面白かった質問、あなたが返答に困った質問などがあれば、それにどう答えたかも含めて書いてください。
便器は和式か？
シャワールームと風呂がどんな風になっているか？
毎日魚を食うか？
宗教心が無いのに、いかにして規律が保たれるか？

C. イアエステとの連絡

1. 研修出発前、手続き上何か問題はありましたか。 いいえ
「はい」と答えた場合、問題点を詳しく書いてください。
2. 派遣国への入国時に何か問題はありましたか。 いいえ
「はい」と答えた場合、問題点を詳しく書いてください。

3. 派遣国到着後、宿舎ならびに研修先へ自分ひとりで行きましたか。 いいえ

「いいえ」と答えた場合、誰と行きましたか。

東京農工大(私の大学)に去年 1 年間滞在していたブラジル人に、野間先生経由で連絡先を聞き、園子に連絡をして、空港まで迎えに来てもらった。それから滞在先の町まで来た後、シェアハウスの子と合流し、それからシェアハウスまで行った。

研修先へも、シェアハウスの友達が連れて行ってくれた。

4. 3で「派遣国のイアエステ委員会」と答えた場合、イアエステ委員会はどのように関与していましたか。出発前から連絡を取っていたなど、分かる範囲で具体的に書いてください。

出発前から連絡をとってはいたが、私の場合すでに迎えに来てくれる友達がいたので断った。

5. 研修初日、研修先の受入準備体制は万全でしたか。 はい

「いいえ」と答えた場合、何に不備があったか書いてください。

6. 研修前から研修期間中、派遣国のイアエステ委員会(事務局)は、どのように関与していましたか。研修期間中、問題が起こったときに適切な対応もしくは助言をしてくれましたか。

特に何もなかった。

IAESTE Brazil のプログラムがあるから参加を促すメッセージが不特定多数に送られては来たが、私個人宛のメールや電話は無かった。

D. その他

1. 今回のイアエステ研修を通して、最も良かったと思うことを詳しく書いてください。

日中は研究室にて研究をし、夜はパーティーをしたりブラジルの音楽に触れられたりと、メリハリのある生活を送れたこと。

IAESTE の研修生ばかりのコミュニティーじゃなく、完全にブラジル人のコミュニティーに滞在をしていたので、彼らと深く接することができ、ブラジルという国をより知ることができた。

2. 研修予定内容に関して事前に勉強をして行きましたか。 はい

「はい」と答えた場合、何を勉強し、どう役立ったかを書いてください。

「いいえ」と答えた場合、事前に勉強をしなかった理由を記述してください。

教授の執筆した論文のタイトルを読み、その分野の英単語を前もって頭に入れておいたため、初日の会話にもすんなりについていくことができた。

3. 研修終了時に、受入企業に研修レポート(Technical Report, Training Diary を含む)を提出しましたか。

いいえ

4. 日本出国前に準備しておいたほうが良いと思われることを書いてください。

現地の言語の勉強。

5. 所持金やクレジットカード等、いくらぐらい・どのように持参されたか、また準備が十分であったかを書いてください。

所持金 3万円→R\$630。三井住友 Visa card、Citibank のキャッシュカード、(楽天の Master Card)
国際的にお金を下ろせる citibank の講座に 8万円。
結局使ったのは、citibank から¥43472。Visa Card で¥47807。Master Card は使わなかった。

6. 日本から持参した物の中で、特に役に立ったもの、あるいは必要なかったものがあれば書いてください。

小さなカギ？ロック？のやつ。折り紙は自分で根気よくやる気がなければ必要ない。
酒はウケがよかった。

7. 来年以降、あなたが派遣された国へ、研修生として派遣される候補生に向けての助言を書いてください。
(研修のことだけでなく、語学面や生活面など、気が付いたことはできるだけ詳しく)

研究室にとって、「誰かを教える」というのは時間のロス。でもだからと言って消極的になっていたらわざわざ来た意味がない。せつかく日本の反対側にいるということを十分に意識して、他では体験できないことを必死に探して積極的に行ったらいいと思う。

郷に入れば郷に従え。

8. 研修前と研修後で、自身の専門分野や国際理解に対する考え方に、どのような変化がありましたか？

もともと国際的である。

3年間のアメリカ、2ヶ月のケニア、2ヶ月のフランス、を経て新興国ブラジルを見れて、新興国、つまりものすごい勢いで発展している国の状況を見て、興味深かった。

自分の興味を持っているバイオ燃料ではない「免疫学」の研修だったため、「やはりバイオ燃料がやりたい」という気持ちが高まった。また、大学院行くかどうかを迷っていたが、今回の経験を経てやはり行くことを決心した。

9. 今回の研修に参加したことで、海外への留学に興味を持ちましたか？すでに興味を持たれていた方は、その気持ちに変化はありましたか？

もともと就職か大学院か悩んでいたが、今回の経験を経て、海外の大学院へ進むことにした。

10. 今後イアエステでの研修を考えている学生の方々へ、メッセージがあればお書きください。

専門でできるとは限らない。だから、「すべてのことから学ぶ」という姿勢が大切だと思う。
現地ですごせる時間を精一杯使って、誰よりも濃い経験をしてほしい。